

薬学教育モデル・コアカリキュラム 改定案に関する全国説明会

～はじめに～

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の趣旨説明
基本理念と利用上の留意点など

平成25年9月13日（金）
文部科学省旧庁舎6階第2講堂

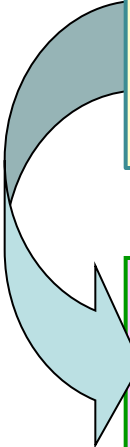
薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に
関する専門研究委員会座長
市川 厚

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラム及び 実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂方針

医療人教育のうちの薬学教育として、新しい教育理念に基づいて作成された。

平成14年～15年に作成された。

→ 平成18年の新薬学教育制度の開始前
専門教育と実務実習が独立している。
積み上げ方式、ユニット＝講義単位で作成された。



10年経過し、6年制教育への時代のニーズに合わせて
改訂、薬学関連領域の科学の進歩、法律等の改定、
社会の変化等への対応
6年制教育に特化したコアカリへ改訂
自由度の高いカリキュラム編成（スリム化）
Outcome Based Education（学習成果基盤型教育）
主体的な学習、問題解決能力の醸成など

薬学教育モデル・コアカリキュラムに関する恒常的な組織の設置について

平成23年7月26日設置
高等教育局長

1.目的

薬学系人材養成の在り方に関する検討会の審議を踏まえ、**薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に関する恒常的な組織を設置する。**

2.役割

- (1) 薬剤師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コアカリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コアカリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コアカリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コアカリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コアカリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コアカリキュラムの改訂に必要な事項

3.設置組織の構成等

- (1) 専門的な調査研究等を行い、モデル・コアカリキュラムの改訂の原案の作成等を行う組織 （薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会）を設置し、文部科学省が主催する。
- (2) (1) の委員会の構成は別紙の通りとする。
- (3) 必要に応じ、調査研究等を分担させるため必要な組織を置くことができるものとする。
- (4) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。³

文部科学省高等教育局 医学教育課

薬学系人材養成の在り方に関する検討会
(薬学モデル・コアカリキュラムの改訂等を決定する組織)



薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会
～改訂原案の作成～

- 基本理念と位置づけ
- 「**薬剤師として求められる基本的な資質**」等の検討
- モデル・コアカリキュラムの項目立て
- GIOとSBOsの関連性の整理等

委託 ↓ ↑ 報告

公益社団法人 日本薬学会

- 薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会
- コアカリ改訂調査研究チーム （各大学推薦者によりチームを構成）

薬剤師として求められる基本的な資質(1) 0722修正案

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

(薬剤師としての心構え)

医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理感を有する。

(患者・生活者本位の視点)

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

(コミュニケーション能力)

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

(チーム医療への参画)

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

薬剤師として求められる基本的な資質(2) 0722修正案

(基礎的な科学力)

生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

(薬物療法における実践的能力)

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

(地域の保健・医療における実践的能力)

地域の保健、医療、福祉、介護および行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

(研究能力)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

(自己研鑽)

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

(教育能力)

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

現 行

薬学教育モデル・コアカリキュラム

A 全学年を通して:ヒューマニズムについて学ぶ

B インTRODクシヨン

C 薬学専門教育

実務実習モデル・コアカリキュラム

教育目標(一般目標・到達目標)

方略

評価(合本には含まれていない)

卒業実習カリキュラム

薬学準備教育ガイドライン(例示)

薬学アドバンスト教育ガイドライン(例示)

改 訂 案

薬学教育モデル・コア・カリキュラム

A 基本事項

B 薬学と社会

C 薬学基礎教育

[物理系薬学を学ぶ]

[化学系薬学を学ぶ]

[生物系薬学を学ぶ]

D 衛生薬学教育

E 医療薬学教育

F 薬学臨床教育

G 薬学研究

例示を残す

新薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた考え

— 基本的な資質に基づいたコアカリキュラムの改訂 —

薬剤師として求められる基本的な資質(案)

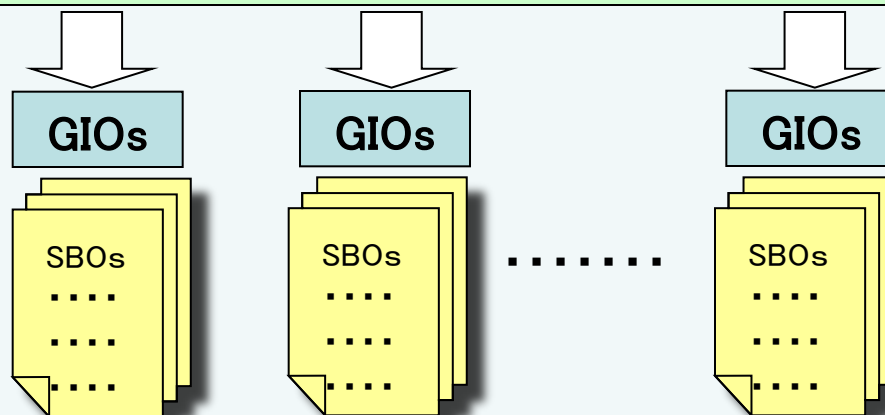
- | | |
|---------------|----------------------|
| ① 薬剤師としての心構え | ⑥ 薬物療法における実践的能力 |
| ② 患者・生活者本位の視点 | ⑦ 地域の保健・医療における実践的な能力 |
| ③ コミュニケーション能力 | ⑧ 研究能力 |
| ④ チーム医療 | ⑨ 自己研鑽・専門性の涵養 |
| ⑤ 基礎的な科学力 | ⑩ 教育能力 |

薬学教育と実務実習モデル・コアカリキュラムの一本化

新薬学教育モデル・コアカリキュラムの大項目(案)

- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| A 基本事項 | C 薬学基礎 | E 医療薬学 | G 薬学研究 |
| B 薬学と社会 | D 衛生薬学 | F 薬学臨床 | |

新薬学教育モデル・コアカリキュラムの中項目



現行モデル・コアカリキュラムの構成(薬学教育モデルコアカリキュラム合本より抜粋)

- (3) 薬学教育モデル・コアカリキュラムは 67 のユニット（講義単位） から、薬学教育実務実習・卒業実習カリキュラムは 14 のユニットから構成されており、互いに関連している複数のユニットをコースとしてまとめている。それぞれのコースおよびユニットには、一般目標（学習者が学習することによって得る成果）を示してある。
- (4) それぞれのユニットごとに、到達目標（一般目標に到達するために必要な具体的な行動）が記載してある。到達目標の総数は 1,446 項目であり、それぞれは知識、技能、態度の三領域に分類される。
- (5) 教育目標に到達するための教育の方法、および到達度を評価するための方法は記載していない。各大学で独自に工夫することになる。

改訂モデル・コアカリキュラム中間まとめ（案）は

- ・ユニット＝講義単位とは意味づけていない。
- ・到達目標の総数は1,067項目（現行コアカリの74%）
- ・現行コアカリ同様に方略・評価は提案されていない。

（注：現行の実務実習コアカリに関しては方略・評価（案）も提示されているが、改訂案には提示されていない。）

モデル・コアカリキュラムの位置づけ

- 6年制学部・学科におけるカリキュラム作成の参考となる
教育内容ガイドライン
- 項目立てや記載内容は授業科目名や履修の順序を示すものではない
具体的な授業科目等の設定や教育手法等は各大学の裁量に委ねられている。
- 6年制学部・学科の教育課程の全てを画一化したモデル・コアカリキュラムの履修にあてておくべきではない
各大学は教育理念等に基づいて、およそ教育課程の時間数の7割を、モデルコアに示された内容の履修に充てるのが妥当。残り3割程度の時間数で個性ある大学独自のカリキュラムを準備することが必要。
- 大学が主体的で実効性のある薬学教育を展開する
6年制の薬学教育の質向上を目指す

平成25年度 経緯と予定

- 4月 改訂コアカリキュラム中間まとめ（案）に対するアンケート調査
- 7月8日 コアカリ専門研究委員会（アンケート結果について）
- 7月22日 薬学系人材養成の在り方検討会
- 7月中旬 日本薬学会コアカリ委員会作業開始
- 8月29日 文科省WS：薬学教育指導者のためのWS
～新薬学教育モデル・コアカリキュラムの各大学での実施に向けて～
- 8月末 日本薬学会コアカリ改訂案（修正版）
- 9月13日 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂案全国説明会
- 9月～10月文部科学省よりパブリックコメント実施
- 平成25年中に改訂コアカリキュラム決定の予定
- 平成27年4月 改訂コアカリキュラム実施予定
- 

4月に実施した、全国薬系大学への
改訂コアカリ中間まとめ(案)に対するアンケート

		コメント数
	SBOs数	小計
A 基本事項	65	312
B 薬学と社会	47	231
C薬学基礎教育	377	1668
D衛生薬学教育	76	379
E医療薬学教育	311	1656
	計 876	
F 薬学臨床教育	178	925
G 薬学研究	13	46
その他		7
	総計 1067	5224

注) 現行コアカリ: A～EのSBOs 合計 1145⇒876
(事前学習＋病院実習＋薬局実習)のSBOs 301⇒178

即ち、現行コアカリSBOs合計1446は、改訂コアカリ(案)では1067程度に減る予定。

修正方針について

専門研究委員会から薬学会調査研究委員会へ要望

- アンケートで付された全ての意見について確認して、GIO、SBOsの修正
- アンケートを踏まえて事項を追加する際には、なるべく全体の量が増えないように配慮
- GIOの表記は簡潔とし、小項目に対応するGIOの二ーズの表記は削除する方向、大項目のGIOの二ーズの表記は「基本的な資質」と結びつくような表現に配慮
- 分野間の整合性やGIOの表記、SBOの重みの違いなどについて、大項目作業グループの担当者合同での調整
- 「日本薬局方を概説できる」の事項をAもしくはBに。
- 医薬品開発・創薬については薬剤師養成における重要性を配慮し、少なくともアドバンストに設定